

## 地球温暖化対策実施状況書

### 1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名鉄交通第四株式会社		
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市西区あし原154		
工場等の名称	名鉄交通第四株式会社		
工場等の所在地	名古屋市西区あし原154		
業種	運輸業、郵便業		
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所		
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)		
事業の概要	一般乗用旅客輸送		
計画期間	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日

### 2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年5月25日 ～ 令和5年8月23日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 名鉄タクシーホールディングス 総務部受付
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-331-0111		

### 3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

#### (1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

・環境問題を地球規模で考え、諸法規を遵守し、高品質なサービスの提供と安全な運行を行う、環境に優しい企業を目指します。

1. エコ・ドライブの推進に努めます。
2. 適正な自動車の点検・整備を実施して環境保全に努めます。
3. 廃棄物の処理にあっては外注管理をしっかりと行います。
4. 環境保全の技術の進歩に関心をよせ、その導入について研究します

#### (2) 地球温暖化対策の推進体制

社内に社長をトップとする「グリーン経営推進体制」を組織する。



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,119	t-CO <sub>2</sub>
① 温室効果ガス 換算 排出量 (二酸化炭素を 除く)	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		2,119

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	1,904	t-CO <sub>2</sub>	1,885	t-CO <sub>2</sub>	2,119	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率 (対 基準年度)			1.0	%	▲ 11.3	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率 (対 基準年度)						%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量								
削減率 (対 基準年度)				%		%		%
原単位あたりのみなし排出量								
削減率 (対 基準年度)						%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

コロナ禍からの回復活動が進み、それによる需要の増加に伴い総走行距離が 10%程度増加した。また 2 台の増車行った。それに比例し燃料消費が増えたため。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。  
 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。



指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--